

里山学院 後援会報 VOL. 8(2013.2)

会員の皆さま、お元気ですか。

今回の里山祭は良かったですね。暑いと思ったのが日没から涼しくなって、雰囲気も祭りの感じが出ていたように思いました。施設長の鍵山さんにお尋ねしましたら、鈴鹿の子ども達や先生方も参加されているとのこと、里山学院が一体となったイベントだから盛り上がっているのかと納得がきました。後援会もメの演技に加えていただき、嬉しく感じました。

さて、河芸里山学院の改修工事が始まりました。学院の生活は家庭生活がモデルで、多人数で、一斉に生活することは一人一人の「自我の自立」、つまり「独り立ち」が望めない、ということで、少人数で「独り立ちの出来る子ども」の育成を目指すための生活空間を設定する必要に迫られたということをお聞きしました。多人数だと「もたれあい」になりがちですが、少人数だと「自分で考えて動く」ということだと思います。自分の生活空間が持てるということは安心感ももて、精神状態がいいということは、子ども達の福祉向上につながりますね。

さて、今回の学院の改修工事についてですが、我々ですと、家が古くなったので改修しますが、こどもの成長に必要な改修するというのは、本当に子どもを大切に考えた事業と思います。大いに悦ばしいことです。

そこで、改修工事に当たって、後援会としてどんなことで後援出来るかなということですが、工事費の国とか県の補助金は法律に決まった工事だと思います。あれもしてやりたい、これもあれば助かるが、といった里山の先生方の思いがたくさんあるかと思っています。そんな思いをお聞かせいただき、後援会は微力ですので、大きなことは出来ませんが、後援会の皆さまのご意見をいただいて学院へ申し出たいと考えています。どうぞ、こんなことはどうだろうかとの提言をお待ちしています。

今春の3月頃の完成とのことですが、子ども達の生活と同時進行の工事に関係の方々本当にご苦労様です。子ども達の笑顔が満ちあふれ、生活する文字通り「児童自立支援施設」が誕生することを期待して、ささやかですが応援していこうではありませんか。寒さに向かいますが、お互い健康に留意しながら元気で過ごしましょう。

後援会 会長 森下眞治



朱塗りの仁王門に入って本堂に向う途中で振り返って見ると、昨日の積雪でまるで墨絵のような男体山の姿が冬空にくっきりと描かれている。師走にはめずらしい雪の日光中禅寺で見て来た光景である。この男体山の山中に観音の浄土があると信じ数度男体山登頂を試みたが失敗、そこで山の麓に中禅寺を建立し、その後十五年をかけて前人未踏の山頂と極めたという勝道上人の事蹟に失敗を恐れず、目標に挑み続けた人間のへこたれぬ勇気を思い、ひとしおの感慨を憶えたものである。

私どもの携わる児童福祉の現場には、完全に完成された目標は恐らくないだろう。しかし、時代とともに目まぐるしく変わり続ける中で見えてくる目標を信じ挑み続けなければならない。近年、子育ての重要さがいわれ、国政においても幼児教育や教育費等の分野で様々な試みが検討され、実施されてもいる。私どもの施設でお預かりしている子供達もその恩恵に浴し、過去に比べれば随分恵まれた日々を重ねていくことができるようになった。感謝にたえない。ところで、子育ての重要性は今に始まった事ではない。今も昔も変わらず大切なことである。特に、未来に希望をたくして生きる事が好きな人間にとっては、未来を担う子供達こそが宝であるはずだから。とこう考えているうちに、ひょっとすると児童福祉にも完全に完成された目標が設定できるのではないかと考えて来る。思考の迷宮に踏み込む前に今一度大地に足をふまえて考えてみよう。そして、へこたれぬ勇気をもって子供達とともに瓦礫を踏みしめ雑木や雑草をかきわけて頂点を目指して一歩いっば歩いていこう。何ごとにもめげず歩き続けていけば、勝道上人が大地に根をはる立木のまの桂の巨木に観音の姿を刻んだという中禅寺の本尊立木観音の大慈悲の懐に、いつの日か暖かい光の中に包みこまれる日が来るに違いない。

里山学院 理事長 安東 長

「あいさつ」

里山学院を訪れると必ず挨拶される。指導員や職員はもちろんのこと、こども達も元気に挨拶してくれる。嬉しかったり、恥ずかしかったりする。こども達の元気な挨拶にドキッとしてこちらの挨拶を忘れてしまいそうになる。

小学校では「オアシス運動」が実施されていたり、いや今でもしているのかな？校門に先生方が立って登校してくるこども達に声をかけている光景をみかける。

私のこどもの頃は児童、生徒の方が先生に挨拶をしたがこども達の一部には先生から声をかけられてから挨拶をしようと思っている子も一部にいるようだ。

自分以外とコミュニケーションをとる方法としては一番の手段が挨拶でしょうし、動物の世界でも挨拶はあるだろうと思う。

自然の万物に対しても挨拶は出来る。ペットや草木に対して挨拶する人もいる。この「挨拶」ということは、元は禅宗の寺院で師が弟子の悟りを試すために用いられていた行為が「挨拶」と言われていたのが転じて日頃の応答や返礼のことばをさすようになったらしい。一休さんの「ソモサニー」「セツパ」は挨拶である。

こんな話を聞いたことがある。ある家では朝起きて洗顔をする時に洗面所の鏡に向かって“ニコッ”と笑顔でまず自分自身に挨拶をするそうです。寝不足や不機嫌の顔を朝“ニコッ”で自分の心を和やかにするそうですし、時には自分に気合を入れたりもする。そうすると「挨拶」は朝一番に自分の心に自分が今生きていることを確認させてくれる。

ぐり

はじめまして、卒院生の古川です。

私が卒院後 12月のクリスマス会にケーキを贈らせていただいています。私が子どもの頃、クリスマス会での大きなケーキが楽しみで思い出に強く残っており、今の子どもたちにも同じような感動を与えさせていただきたく続けていきます。

私自身 4歳から 18歳までの里山生活でしたが、学院で育てていただき今は感謝しています。それは多くの方々の手助けがあって今の自分があるからです。

里山育ちでなければ今の自分はないです。

今の子どもたちも多くのご支援の中、元気に育つことを願います。

卒院生 古川昌和



本年度は4年越しに、待望の鈴鹿市での施設の開設が叶いました。そもそもこの施設開設計画が立ち上がった時に、後援会が発足しました。皆様のご支援のお陰で、今は本体の改修も叶い、河芸もユニット・個室へと益々子ども達にとっては嬉しい生活環境へととなります。

引き続き皆様のご支援を賜り、里山学院が児童福祉向上の拠点となるよう、頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

里山学院 施設長 鍵山雅夫

平成25年1月からの河芸里山学院の大規模修繕工事に伴い、後援会費用から新しい備品を購入させて頂こうと考えております。あしからず、ご了承ください。

鈴鹿里山学院



今年度の4月からスタートした鈴鹿里山学院です。

当初はユニット化・少人数に慣れず、自然と集まって遊んでいたりと、大きなお風呂から家庭的なお風呂に変わり戸惑っていた子ども達も、今では自分の居室で各々余暇を楽しんだり、ゆったりと入浴したり、ホールに集まり、皆でダンスをしたりとすっかり新たな学院の生活に慣れました。

ユニットでは、おやつ作りや食事作りをし、家庭的な雰囲気の中で生活をしています。調理する機会も以前より増え、少しずつではありますが、子ども達の包丁の使い方や、調理も上手になってきました。食育を子ども達もとても楽しみにしてくれているので、職員もやり甲斐があり、腕を振るう機会が増えました。最近では、ユニットで鍋パーティー、天ぷらパーティー、ポップコーン作りなどをしました。自分達で作ると一段とおいしく感じ、ついつい食べ過ぎてしまう子もいます。なにより、出来たてを頂けることがとても嬉しいようです。

河芸と同様、地域の方々には温かく見守って頂き、日々、大変感謝しています。慣れない場所での生活でしたが、自治会長様、子ども会の方々をはじめ、地域の方々のご支援で楽しい生活を送ることができています。夏には、盆踊りや地域の祭り、御神輿などに子ども達と参加しました。猛暑の中、3時間近くも子ども達が汗ぐっしょりになりながら「わっしょい、わっしょい」と御神輿を引いて練り歩く姿を見た時は、大きな成長を感じ取ることができ、感激しました。地域の伝統や文化にも触れることができ、子ども達にとっても『学び』がたくさんあります。

学校生活にも徐々に慣れ、たくさんの友達が学院へ遊びに来てくれるようになりました。7月の七夕会にも地域の子も参加してくれました。登下校の際には、子ども達は大きな声で挨拶もしてくれ、とても関心しています。参観や運動会、音楽会では学院で見せる顔とはまた違った子ども達の顔を見ることができました。子ども達の成長がとても楽しみです。

続いては学院での行事の紹介をしたいと思います。

7月 七夕会

学院にとって初めての行事、『七夕会』を行いました。七夕会は地域の子も交流出来た、初めての行事です。事前に子ども達が学校の友達にも声をかけ、たくさんの友達が参加してくれました。村主さんに頂いた大きな笹に、子ども達も職員も思い思いの願い事を書いた短冊や飾りを付け、皆で願い事しました。自分のお願いをする子、みんなのお願いをする子等様々で、個性豊かな短冊が出来あがりました。願い事を書いた後は、納涼会を兼ね、少し怖いDVD鑑賞をしました。幼児さんには少し怖かったようで、しばらくは「おばけこわいなあ」という子ども達もいました。最後は、みんなで冷たいアイスを食べ、泣きべそをかいた子ども達もにっこり笑顔に戻っていました。子ども達の願い事が叶いますように…☆



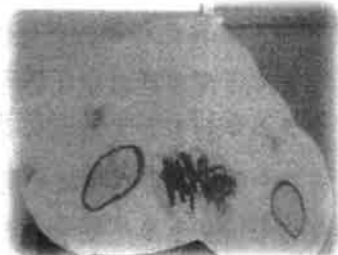
8月 キャンプ

今年度は1泊2日で『グリーンランド朝明』へキャンプに行きました。とても暑い日でしたが、子ども達みんなで菰野駅から菰野の図書館まで長い道のりを徒歩で行きました。炎天下の中、リュックがとても重く感じ、途中くじけそうになりましたが、全員無事に到着することができました。キャンプでは、まずは川遊びをしました。日照った体に冷たい川の水はとても気持ち良く、子ども達は大はしゃぎでした。疲れもあつという間に吹き飛んで行きました。続いては夕飯のカレーライス作りです。男の子は火おこしや飯盒を中心に、女の子は材料を切ったり、洗い物を中心に分担して行いました。幼児さんはフルーツポンチを作ってくれました。玉ねぎが目にしみると言って、ゴーグルをしながら切る面白い子もいました。みんなが力を合わせた甲斐があり、とてもおいしいカレーライスが出来上がりました。二日目はネイチャーゲームを縦割りのチーム戦で行いました。大きい子が小さい子の面倒を見てくれながら、自然のクイズに答えたり、木の幹の太さを当てたりと白熱しました。とても楽しい夏の思い出になりました。



10月 ハロウィンパーティー

10月30日にハロウィンパーティーを行いました。もちろん参加できるのは仮装している人のみです。人間は参加できませんので、職員も仮装しての参加です。子ども達は何日も前から、どんな衣装にするかを考え、袋や段ボール、画用紙等を使い、色々な衣装やお面を作っていました。想像していた以上の出来栄で、創造力豊かな子ども達に職員もびっくりでした。かぼちゃに仮装した子、魔女に仮装した子、小人に仮装した子等、様々でしたが、どの子も可愛く個性が溢れていました。幼児さんは愛嬌たっぷりでした。パーティーでは仮装するだけではなく、皆の前で、仮装した姿を披露し、どの子が一番上手に仮装できたか、皆で投票をしました。1位に輝いたのは魔女に仮装した小学校1年生の女の子でした。最後は「トリック オア トリート」ということで、皆でおいしいお菓子を頂きました。今から来年が楽しみです。



今年度4月にスタートしたばかりで、まだまだ手さぐりの状態ですが、子ども達と共に子ども達がより有意義な生活が送れることを考えながら、様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。たくさんの方々を支えられて学院が成り立っていることを忘れず、笑顔溢れる鈴鹿里山学院でありたいと思います。今後ともご支援ご鞭撻の程、宜しくお願いします。